# 那珂市議会原子力安全対策常任委員会記録

開催日時　令和５年９月14日（木）午前10時

開催場所　那珂市議会全員協議会室

出席委員　委 員 長　武藤　博光　　副委員長　花島　　進

　　委　　員　笹島　　猛　　委　　員　冨山　　豪

　　委　　員　大和田和男　　委　　員　關　　守

職務のため出席した者の職氏名

　　議　　長　萩谷　俊行　　事務局長　会沢　義範

　　次　　長　秋山雄一郎　　次長補佐　岡本奈織美

会議事件説明のため出席した者の職氏名（なし）

会議に付した事件

（１）視察研修の振り返りについて

　　…振り返りを実施、報告書の作成

（２）調査事項について

　　…報告書の作成

（３）その他

　　…議員勉強会について協議

会議資料　別添のとおり

議事の経過（出席者の発言内容は以下のとおり）

　開会（午前10時00分）

委員長　おはようございます。

　本日は原子力安全対策常任委員会、ご参集賜りありがとうございます。

　ようやく暑さも和らいできまして、皆さんも過ごしやすくなったとも思いますけども、新型コロナウイルスやインフルエンザなど、体調を十分留意して行動願いたいと思います。

　開会前のご連絡いたします。

　本日は、換気のため廊下側のドアを開放しております。

　会議は公開しており傍聴可能です。

　会議の映像は庁舎内のテレビに放映されております。発言ではマイクを使用し、質疑答弁の際は簡潔かつ明瞭にお願いいたします。携帯電話をお持ちの方は、電源をお切りいただくかマナーモードでお願いいたします。

　ただいまの出席委員は６名でございます。欠席委員はいません。定足数に達しておりますので、これより原子力安全対策常任委員会を開会いたします。

　職務のため、議長及び事務局職員が出席しております。

　まず、議長からのご挨拶をお願いいたします。

議長　改めておはようございます。

今日は会議事件が視察研修の振り返りと調査事項とその他という３件ですので、慎重にもスムーズなご審議いただければと思いますのでどうぞよろしくお願いいたしまして挨拶に代えさせていただきます。

よろしくお願いします。

委員長　本日の会議事件は、会議次第のとおりであります。

これより議事に入ります。

まず１番目の視察研修の振り返りを議題といたします。

７月27、28日の新潟県庁及び柏崎刈羽原子力発電所の視察について振り返りを行いたいと思います。

皆様からのご意見、ご感想をお願いいたします。サイドブックスの中に、当時のやりとりが出ておりますので、ご参照ください。

副委員長　新潟県庁に行きたいと言い出したのは私で、聞きたいことを一応聞けた。本当のことを言ってくれているかどうか分からないですけど。

私が関心あったのは、新潟県には専門委員会と技術委員会というのがあって、国とかとは独立に原発関係のことを検証したり議論したりして、なおかつそこの委員っていうのが、結構原発に批判的な人も入っているんですよね。大概のところだと、原子力関係の機関とか研究機関とか、大学なんかで、批判的なことを言って冷や飯食っている人がはじかれて、残っているえらい人が委員会に選ばれるってことが多いんですが、ちょっと新潟県は違うということで、どういう経緯かなというふうに聞きたかったわけです。

そしたら答えは米山知事のときに、いろんな分野から人を集めた。それからまたその中でいろいろ、批判的なことも言える人が入ったんだと思います。そのあと、各分野の委員が入れ替わるときに、基本的には前任者の推薦で次の人を選んでいるという話でした。ですからそういう伝統がつながっているのかなというふうに感じました。

もう一つは、県の職員の体制がどうなっているかっていうことを聞いたんですが、それについては、原子力安全対策関係の職員は、専門職みたいな人を選んでいるというのがまず第一、それから事務職がいる。専門関係では原子力関係以外に、ほかの工学系の方も、採用しているということでした。事務局関係では、ほかの部署とは違って、幾らか経験がある人をもう一回任用するように、任用というかその部署につないでいるという話だったと思います。

以上が、印象的なことです。

委員長　今の副委員長から県庁での原子力委員の件についてお話がありました。このほかにも柏崎刈羽原発現地の視察の件の振り返りをお願いいたします。いかがでしょうか。

大和田委員　県ですかね、新潟県になってしまうんですけども。

先ほど副委員長からも話もあったとおり、県の内部でも稼働しないに当たりそういった

専門の職員を配置したり、そういった委員会でも、賛否両論の中で、非常に良いも悪いも、議論が進んでいるのかなあという印象があり、そして、やはり県民それぞれも、聞くと避難訓練ですか、随時行っていたり、避難計画も各市町村随時策定していくというところで、県民の意識も、大分この茨城県と違うのかな。それにはやはり政治的にも行政的にも、そういったところに取り組んでいるという意識が強いのかなと、そういった印象でございました。

以上です。

冨山委員　新潟県庁でのお話の印象ですが、避難訓練の回数を増やして、質を上げることが重要だっていうことで避難訓練の回数が、結構な回数で行われているっていうのがとても印象的でした。私も質問させていただいたんですが豪雪地帯でございますので、避難は、天候に左右されるっていう場合も今想定して、策定中である避難計画の中に盛り込んでいただきたいということを今、国に対してお話ししているみたいですが、これは那珂市の避難計画にどう反映するのか分かんないですけどやっぱりこれ、一度避難計画をつくったとしてもやっぱり、何度もいろんなふうに今新潟県においても、ブラッシュアップさせるために、次の課題次の課題と見えてきたのを随時対処しているっていう印象だったので、これは将来的にもし避難計画出来ました終わりですっていうな感じじゃなくて、やはりいろんなことに関して、避難計画は盛り込んでいくって今後もう長い間、長い間ってこうずっと続ける必要があるんじゃないかなっていう改めて認識したっていうのが感想です。

あと市民感情はやはり、近隣市町村、温度差はいろいろあるっていう話をしていました。確かにこの地域とも同じようなことが言えるのではないかなって感じた次第です。

以上です。

委員長　ほかございますか。

笹島委員、お願いします。

笹島委員　県庁行って先ほどから話している特別だよね、原子力安全委員会か何かって持っていてね。ほかではないよね。非常に皆さん、すばらしいいろいろ我々が言っても、いろんな、ちゃんと回答出来ているっていう感じ。それはそれでいいんですけど、今度柏崎刈羽原発に行ってみると、早く再稼働したいというようなニュアンスが感じました。特に６号機７号機、まだ若いから。40年以上経っていないっていうそういうことで、ひっきりなしになんか言っていたんですよね。米山知事のときに立ち上げたということで、この方も特殊だったかもしれないですけど、もちろん先ほどから話している住民の意識がそれは近場にあるからね。ちょっとここことは比較出来ないんですけど。ここの東海第二原発は古くてね、１基しかないということで何が何でも再稼働したいと。向こうは今言っていた東京電力か東北電力かどっちか忘れちゃったんですけど、それにとってはもう本当、最後の切り札の東京への送電線、あれして何とか再稼働したいということは感じましたけどね。だから何か今言っていたこの安全委員会、柏崎刈羽発電所がネックになっているのかはよく分

かんないですけども、どうなんだろうっていう、前の米山知事のときにそういうことを、あの方が特別な方だと思いますけど、今の知事はどういうふうに思っているか分からん、そのまま継承しているのかと思うんですけどね。だから、何かちょっと私らには私は参考にならなかった。全くね、ここのところは。せっかく選んでもらって申し訳なかったんですけど。ここはまた別のあれでね、全国的にも特別なところで、何が何でも再稼働させたいっていう日本原電のあれでっていうことでね。全然ちょっと違うような気がするので向こうはもう余裕を持っていますので、国もね、６号機、７号機は早く再稼働したいっていう意向を感じますよねだから、ちゃんとちょっと今の電力高騰の時代にね、いつまでも自然エネルギーとは言わないし、だからちょっと何か矛盾していると感じて、ちょっとごめんなさい。余りちょっと参考にならなかったので、すみません。

以上です。

副委員長　すいません、ちょっと誤解があるようなので。実は茨城県も委員会持っているんですよ。ただ、ほとんどの人は気がつかないぐらい目立たない。技術委員会とかもあります。

それから柏崎刈羽は東京電力なんですよね。だから、東京電力はあそこに電気送ってないんで、大体東電管内に一基もないですね自分のは。東海第二が、ほとんど東京電力が出資しているけど、ほとんどは言いすぎかな、かなり出資しているけど、東京電力のものではないということですかね。ちょっと茨城県を少し弁護するために言いました。

委員長　はい、皆さんの意見をまとめますとこの柏崎刈羽原発と東海第二では、またちょっと立地条件、そしてまた避難計画、そしてまた規模も違うということで、多少の違いはあるんですけども、やはり新潟県においては、原子力専門委員会や技術委員会が稼働していること、茨城県よりも明確に稼働しているということと、あと再稼働に関しては、柏崎刈羽原発は、内部のコンプライアンス系の問題で今、規制委員会で待ったがかかっている状況で、そのほかの避難計画とかも、ある程度認められたということで、ちょっとこちらとは違うっていう印象がありました。

その中でね、東海第二は、全然避難計画がなってないということで、昨日も東海村の東海村長がそのような発言をしておりましたけども、まずこの避難計画が全然出来てないというところが大きな違いなのかなという感じを持ちました。

皆さんの意見をまとめますとそういうことなのかなというふうに思います。

それでほかに意見なければ、このまま引き続いて調査事項に入りますけど、調査事項はサイドブックスの中に入っております。副委員長が主につくっていただきまして、報告書案ということで掲載されております。

委員の皆様には既に確認しているかと思いますけども、サイドブックスの最後の欄に、原子力安全対策の案が、出ています。この案を基に一応これ２年間の振り返りになっております。この２年間の振り返り、このようなことをしたっていうことですけども、これについてのコメント、意見ございましたらお願いしたいと思います。あと修正とかね、付け

加えたほうがいいということがあれば、これに付け加えてお願いしたいと思いますので、ページ数５ページありますけど皆さんのご意見をお願いしたいと思います。

副委員長、説明をお願いいたします。

副委員長　いきなり読めと言われても面倒くさいでしょうから、概略をお話ししたいと思います。

２年間分ということで、下調べを含めていろいろやったら結構大変で、結構いろんなことやっていたんで、落ちがあるかもしれませんが、何も出さないといけないので出しました。今朝見たら誤字があったり、フォーマットの整理がよくなかったりする部分あるんですが、その分は、最終版に改めたいと思います。

まず全体の構成なんですが、１番目で概要を書きました。一言で言えば、主な活動は、再稼働に関わる問題ということです。これでこの２年ぐらいの間にいろんな変化があったので、変化というのはですね、周囲状況の変化ですかね。それについて書きました。まず、第一はどこに書いてあったかな。一つは、広域避難計画について、県の方針が変わったということです。それから２番目は国の政策が変わって原発積極利用になったということを書きました。そのあとは広域避難計画策定の現状について書きました。これは那珂市がっていうよりは全体像を中心に書いていまして、那珂市についても書いています。そのほか３番目からはいろんな調査の中身について書きまして、２ページの３で、まず視察について書きまして、六ヶ所村の視察、新潟県の視察を書きました。これに書いてないのは、茨城県の県庁に行って話を聞いた話が、抜けています。後で気がつきました。六ヶ所村の視察と新潟県の視察、それぞれ書きまして、３ページから市民の声を聞く活動ということで市民の声を聞く会、これについては、市民のこと、声というのは大事だということで、ほぼ前の委員会でまとめたものをそのまま利用させてもらっています。分類して書いてあります。それから、10 月の議員と語ろう会ですが、去年の 10 月ですね。議員と語ろう会は原子力がメインテーマではないんですが、原子力関係の意見が出ていますのでそれについて、こういう意見が出ていますということを書きました。

４ページの那珂市の避難訓練に参加した方、本米崎地区の方々に話を聞いていまして、それで書いたんですが、結局一番印象に残ったのは参加者を集めるのは苦労したという話、市民の関心が薄いということかなと思って一言で書いています。

視察以外の研修としてエネルギーの何だっけ、国の経済産業省の前田氏のお話を聞いたことを書きました。委員会の勉強会でやった学習ですね、私が話をし、そのあとディスカッションしたことを書いています。そのほかの活動として各年度に市内原子力関連事業所及び日本原電の年度計画説明を受けましたと。それから、検討されたけど残っている課題として、東海第二の再稼働の可否について議会の考えを今年中にまとめてほしいが遅れていると。市民アンケートの実施ということについても検討されましたけど、実施計画策定に至っていない。東海第二原発再稼働容認派、反対派それぞれの知識人などを考えを聞く

機会もまだ十分につくれていないというふうにまとめています。

その最後のページが活動しで今まであったいろいろ広げて何月何日何っていうことを書きまして、これは項目を挙げただけです。

以上です。

委員長　はい、今の副委員長から概要説明がありましたけども、これに付け加えたり、編集とか、希望があれば、承りますけど、いかがでしょうか。大体この２年間の振り返りについての報告書となっております。

大和田委員　ちょっと付け加えるじゃないけど、副委員長から今話があった茨城県の内容も、何かしら入れてもらうことと、新潟県の視察でも今振り返りの中にもあった、避難訓練の実施が、徹底している話。それが避難計画のブラッシュアップにつながっているんじゃないかっていう話も何かしら入れてもいいのかなあというのと、本米崎の自治会の方に聞いたやはり市民の関心が薄いのではないかというところで、やはり今後検討する課題としては、市民の関心っていうかなんて言うんでしょうね、市民への周知、市民への何かしらそういった機会、訓練もそうですよね。先ほど新潟県の話につながると思うんですけども、そういったところが今後の課題なのかなと思いますので付け加えていただけたらなと思います。

以上です。

笹島委員　何か、これ読んでいて非常に熱心でいいね、那珂市としてはね。

ちょっと私怒り感じるんだけど。東海村が恩恵を受けているんだからもっと東海村が積極的じゃないと。那珂市だけじゃないの、こんな積極的にやっているのは。そうでしょ、副委員長。ほかはやっていないでしょう、こんなこと。

副委員長　東海村は今、議会は大変な状態になっています。大変というか、請願が幾つか出ていまして、再稼働推進の請願と逆の請願とそれぞれ複数件かな。正確じゃないかもしれません。とにかく２件以上もっと出ています。それで、結構議論やっていますね。でも議論になっているかというと、どうもそうではない感じで、東海村は再稼働、人数的には議会では、再稼働容認の方のほうが圧倒的に多いんですよ。容認どころかもう推進、やりたい人。何しろ日本原電から議員が出ているから、あと原子力機構の何ていうんだろう。何て言ったらいいのか。何て言っていいのか分かんない人も出ているし、いろんな恩恵を受けている方もいますので、そういうのはかなり動いているんですけど。で、向こうは原子力、正確な名称は忘れましたが特別委員会で、議長を除いて全員が参加する委員会になっています。それでいろんな容認派と反対派の講師を呼んで、話を何度も聞いているようです。ただどうも様子を聞くと、容認派の方々は、反対派の講師の話をまともに聞いてない感じですね。だからお互いに何か声を上げやっているだけで、中身の議論というのが、しているようには見えない姿勢です。だから、笹島委員が言う非難が当たっているかどうか分からないですが、向こうは向こうで動いています。特にここ１年ぐらいですか。こっちがむ

しろ議論するってことに関しては、遅れているかもしれません。ちょっと私のさぼりみたいなものがあるんですけど。これは謝ります、ごめんなさい。

笹島委員　ほかの市町村はどうなんですか。

副委員長　話に聞く限りではほとんど動いていません。ひたちなか市、日立市とかですね。水戸市なんかは昔、何か請願に対する採決がされて、全然容認じゃないって感じですかね。水戸市の市長は、いろいろ再稼働には厳しいハードルがあるということを言っていまして、言い方は別ですけどね。普通に考えたらそのままいけば、再稼働に賛成は出来ないでしょうね。ただ、くるっと変わるかもしれないから、その辺分かりません。国の圧力とか、その他の何だかんやで、どう変わるか分からないと思っています。

笹島委員　いろんなその話を私もいろいろ聞いているんですけど、一応今、東海村もうほとんど容認派で、反対ほんとに１人か２人くらいしかいないですよね。党派の関係でね。水戸市もそうかもしれない。高橋市長が云々って言っているけど、本心からそういうこと言ってないと、何かパフォーマンスに聞こえるんですけどね、何かそういうね。

副委員長　まず東海村は１人２人ではないです。反対派は数人います。少なくとも１人２人、３人おいてまだいます、反対している方は。それから水戸市の高橋市長がパフォーマンスっていうと私はそういうふうに感じないです。なぜかっていうと、言っている中身がそういうふうに感じられない。例えば広域避難計画が出来なければ、承認しないとかいう言い方するときも、例えばいいかげんな避難計画つくって、大体どこもそうですからね。今、新潟県だってやっているって言ったって豪雪の時避難できるかって言ったら、無理なのに出来たってことにされているでしょう。そういうふうに、いろんなことを考えては、実効性のある避難計画がほとんど出来てないと私は思っているんですけど、どこも承認していますから、いいかげんな避難計画でも出来たって言って、いくってことはあり得るわけですけど、高橋市長の言動から言うとそんなふうには感じないです。もう一つ大きなひたちなか市では、住民の反対運動はかなり活発です。だけども、大久保市長といったかな、今のひたちなか市の市長は、反対派の住民と話合わないみたいですよね、この件で。だから、ごめんなさい、大谷市長か、大久保さんは別だ、議員ね。ちょっと分からない、正直言って。本当に分からないですね。

　大体早めに反対の意向なんか示すと、国に対して圧力があったりとか、あり得るわけでね。だからそういうことをしんしゃくして、判断を示してないかもしれないですけど。容認なのかもしれないし、本当に分からないっていうのは、残念なとこです。

笹島委員　私が危惧しているのは東海でもそうですけど、そのひも付きの議員が多いわけですよね、正直言って、原子力関係、日製関係、あとは地元ね。ですから３分の２は、そういう関係で容認する反対しないということは明確ですよね。で、ひたちなか市議もしかり、日製関係の組合から出ている人がいますよね、これはもうもちろん反対しないですよね。そういうこう周りにこういう、申し訳ないですけど純粋な住民の方が反対して云々ってい

う。だけどもあと政党関係の人もいるかもしれないですけどね、このグループと、それ今言っていたひも付きの方とっていうこのあれで、何かあと周りもちょっと政治家が、あれしてっていう、これ市民のため、ただ単なるパフォーマンスだけしとけばということの方もいらっしゃるかもしれないですけど、何かそういうふうな複雑なとこで、我々は純粋にこう考えてやっているっていう、ちょっと矛盾を感じるんですけども、意見は求めないですけど。

副委員長　その辺については、企業の代表だろうが組合の代表だろうが、やはり市民の代表である分には違いないのでね、それはやっぱりひも付きだからけしからんとは僕は簡単に言うつもりは全くないです。ただし、ちょっと状況が昔と違うのは、茨城県は日立製作所の力が強くて、その労働組合関係なんかも、経営の意向を組んだ、ちょっと言い過ぎかな。経営の意向をしんしゃくすると言ったほうがいいかな。組合なんか多かったんですけど、日立が結構売却していますよね、事業を。昔、日立工機って言ったところ、ハイコーキかな今は。外国の資本が経営に入って、そういうことをやらないって言っているらしいですね。要するに、議員は出さない企業から。だからそこの職員が勝手に政治活動するのは別に否定はしないだろうけど、会社が後押ししたりすることはないそうです。だからその点ちょっと事情が変わってきているかもしれません。そういう意味では、私も一議員なんでね、原発ははっきり言って反対だと前から言っていますけど、ただその、選択肢なんかで選択するときに、議会なり、選挙で選ばれた首長の判断することで、その中で意見を言って、多数を得られなければそれはそれであってしようがない。原発残すのは賢いことと全然思わないんですけど、それを選択したからといって、自分がそれよくないと思っているけど、そう思っているだけですね。だからあんまり企業関係の人だからどうのこうのとか、原発利益得ているからどうのこうのとか、けちをつける必要もないし、しんしゃくしてやる必要もほとんどないと。我々社会全体とか市民全体のことを考えて活動すればいいかなと思っています。

笹島委員　社会全体がそういうふうにしてね、成り立っていますからね。

冨山委員　１点確認したいんですけど、これ検討が残されている課題に、議会の考えを2023年中にまとめるという方針。これって議長検討されました議会で。

副委員長　委員会ですね。

冨山委員　委員会の判断、委員会の考えをですよね。ここ１点だけです。

委員長　今３点ほどですね、修正もしくは加筆というところであったわけでございますけども、あとほかになければ、こちら側でまとめて、これをもって報告書ということにしたいと思います。

副委員長　今委員長がおっしゃったとおり３点、新潟県の避難関係の活動とか、本米崎の意見に我々感想を加える、それから茨城県庁に行った話を書き加える、この３点ですね。あとは皆さん、今日初めて見た方もいるから、気がついたことがあったら電子メールやらなに

かで流してもらって、取り入れるかどうかは委員長と私と相談させていただいてよろしいですか。

冨山委員　大和田委員が言ったのは多分、温度差っていうかその関心のない人たちにどう関心を持ってもらえるのかが今後の課題になるっていうことでよろしいですね。私もそれは本当に同じ意見です。

副委員長　全体にそうですね。

冨山委員　全体的にやっぱり関心を持っている人と関心を持ってない人のやはり温度差が、すごくあるなっていうのは感じたんで、いかに関心を持ってもらうかっていうのが今後の課題になっていくのかなっていうのは、大和田委員の意見と同じように、その中にお願いします。

副委員長　その点ですが、この報告とは別に、やっぱ一つ我々のこういう活動しているっていうのをもっと細かく、市民に知らせることだと思うんですね。だからそういう意味では広報の中身とか、いろんな中で、何ていうかな、当たり障りがない記事だけではなく、きちっとした活動内容なり市民が、市民からこういう意見が出たということを率直に流したほうがいいと思っているんです。これまでの議会広報の記事ってちょっとね、何ていうかな、当たり障りがないっていうか、ただやりましたみたいなね。だからいろいろ参加した方が、原発再稼働ありきじゃないかとかね、そういう話になるんだと思うんですよね。その点で新潟県庁視察記事も議会事務局でせっかく用意してくれたんだけど、全部私書き直したいと思います。今日の議論とか、この報告書に意見を入れまして、議事録もありますしね、やらせていただきたいと思うんですが、それは委員長と突き合わせて、最終原稿にしたいと思います。

委員長　そういうことで、今回の今までの意見をまとめまして、訂正版報告書を作成していきたいと思います。

　続きまして、先ほど副委員長のほうからありました、このサイドブックスの中に入っています、視察の記事の確認でございます。それについて、一通り案が出ていますので、ご参考にしていただければと思います。修正等がある場合は、また後日、ラインワークスでお願いすると思います。

　これ副委員長、若干書き換える予定かな。

副委員長　全部です、全部書き直します。

委員長　これにつきましてはね、もう一度ちょっと副委員長で作りますので、それからの確認ということでお願いいたします。

　続きまして議員勉強会についてを議題といたします。

　副委員長からの説明を求めます。

　いつごろどのような形で開催していくか、検討していただきたいと思います。

副委員長　前にそれぞれ容認派、批判派３人ずつぐらい提案したんですが、そのあと具体的に

動いてなくてすみません。より具体的に２人名前を挙げて行動をしたいと思います。

容認派は岡本孝司氏でこの人は茨城県の委員でもあります。それから、ここにタイトルに書いてありますが、東京大学大学院教授。人に言わせると本当にごりごりの推進派ですかね。

批判派は田中三彦氏で、この方は、日立系の会社にいた方で、今は、サイエンスライターみたいな形になっています。結構、難しい本の翻訳なんかもしている方です。東京電力の事故について、いろいろ事故調査委員会っていうのが出来たんですが、国会がつくった事故調、事故調査委員会の委員でもありました。この方は日立系にいたときに、原子炉の圧力容器の設計していた形で、圧力かかるものっていうのは、形がきっちりしていないと、ゆがんでいたりすると弱くなんですけどね。その円形度が、規定よりもずれちゃってつくられちゃったという事件がありまして、それを直すってことをやった方です。直すためには、無理やり変形さして炉に入れて、どういうふうな温度細工にしたらいいかとか、そうすると、ゆがみを直せるというようなことを、計算して、実際にやった方ですが、はて、そういうことをやっていいものだろうかっていうことを考えて、それはなぜかっていうと要するに鉄っていうのは、温度サイクルやると性格が変わるんですよね。いろんな加工プロセスの中で、こういうふうに検査してこういうふうにやるっていう、もうほかにさらにそういう熱処理をしてしまうと要するに安全性に問題が生じると、恐れがあるということを考えていたそうです。それとは別に、仕事を辞めて、フリーっていうかな、別の仕事についたときに、昔こうやったこと、やっぱりまずかったな。そのあとも原子力に関係していろんなことを検討する方になりまして、もともとちゃんとした技術者なので、安全ということに関して、どういうふうにやるか、例えば安全計数って言葉もあるんですけど、例えば、こういうはり棒みたいなものがあって力がかかると壊れるのはこのくらいの力。でも壊れるギリギリに作ってはいけないわけですよね。それはある係数をかけてつくるんです。それが安全係数でその考え方とか、そういう技術の何て言ったらいいんですかね。表面的じゃない。きちっとした考え方を持っている方で、原子力関係で、例えば安全性のことを無視した記述なんかあると分かる人なんですよ、おかしいって。そういう批判的なことをやってきた方です。ですから、ちょっと難しい話かもしれないんですけど、私の考えでは、原発が例えば、規制委員会はちゃんとやっているからとか、偉い学者が見ているんだからとか、そういうふうにして流されて、それおかしいんじゃないかなと若干思っていても、なかなか正面切って言えない。あるいは、おかしいんじゃないかとも思わずに、安全だと思い込んじゃうみたいな方が結構いる中で、何か少し難しいかもしれないけど、いい話してくれるかもしれないと思いまして、候補に挙げました。

実は本当に批判派から呼ぶのはなかなか難しくて、いろいろ分野ごとにいろんなことを言う人はいるんですけどね、総合的に言える人ってあんまりいないんですよ。だから、総合的に見ているのは、ある程度限られているということで、その中から、実際にどういう

総合的にちゃんと話してくれるかどうか分からないんですが、まずは聞いてみましょうと。この２人です。２人の場合いずれも偉い先生に来てもらって話を聞いて、若干の質疑をして終わりっていう形にはしたくなくて、講義した内容について、反論も含めて、いろいろディスカッションできるぐらいの時間を、講師もそれを受けてくれる人。そうでなかったら、講師に選びたくないと思っています。

この間のエネルギー庁の人は話を聞いて僅かな質疑時間だけで帰っちゃいましてね。あんなんではちょっと意味がないと思っています。

時期はなるべく早い時期にやれたと思うんですが、我々の任期は２月までなので、できれば12月までにできる範囲でやって、それで出来なければ、もう次送りという形で進めたいと思います。

笹島委員　あんまり専門的なことを話される先生呼んでも分からないですよ、私らは。総合的な話をできる人じゃないと。それで私らが知識得たって何にもならないじゃないですか。私らはその仕事ってやっているわけじゃないんだから。そこはちょっと副委員長ちょっと偏りすぎているよ、総合的にこう、難しい専門的な話なんか聞きたくないですよ、私分からないから、正直言って。そっちのほうのあれじゃないんですから、議会議員なんだから。それはちょっと偏り過ぎているからそれはもうやり直したほうがいいよ。我々そういう知識だって何もないわけだから。それで仕事やっているわけじゃないんでね、申し訳ないけど。議会議員なんでね。だから総合的な話を聞きたいんですよだからそれはね。要するに、少しでもその得るものってのはそれしかないと思うんですよね。どうなんですか。

副委員長　なかなかすごく難しいところで、この問題について、原発の怖いとか怖くないとか、そういう話じゃないのが焦点だと思うんですよ。そういう話はたくさんあるんですよね。福島事故でひどい目にあったからもう嫌だとか、そういう話も駄目ってわけじゃないですけど、世間にあふれているから、私としてはそもそも事故の起きる可能性の一つ、それからエネルギーの供給元としてどうなのか、ほかのエネルギーとのバランスとかですね。そういう点になるとね、そう簡単に、感覚的に分かる話は僅かしかないと思うんです。例えばエネルギー供給問題にしたって、ＣＯ２削減問題とか、今のエネルギー危機みたいな中で、原発が必要なんじゃないかと思う人っていますよね。その時にいや、それはどうなのって現状話すときに、やっぱ数値的な話が出てくる。それから、社会がどういうふうにエネルギーを使っているかということも無関係じゃない。だから、本当に細かい話までというのは分かんないですけど。ある程度そういうことにつき合ってくれないと、結局感覚的な話で、反対の意見がこれだけあります、容認の意見これだけありますっていう話で、我々判断することになっちゃう。それは無視出来ないですけど我々の考える基盤としては、若干ちょっと難しいような話でも耳を立てて、結局言っていることの結論だけ受け止めるってことになるかもしれないですけど、それなりに背景のあることを言っているんだと。いうふうな、聞き取りしていただきたいなと私は思うんです。分かりますよ、自分ですぐ

理解できない、僕だって難しい話をされたら、何ていうかな、受け切れない。というのがあるから、それは分かるんですけど。多少、総合的な話をしてもらうようになるべく努力します。そういう意味では。

委員長　今講師についてのお話があったんですけども、どうですか、一応この２人ということでよろしいのかな。

副委員長　すいません、もう一つ。

笹島委員から希望があった件ですけど、総合的になるかどうか分かりませんが、もし感覚的な話をもっと聞きたいということであれば、これとは別にまた考えていいかと思います。そういう人は、逆に言うと幾らでもいるんでね。

委員長　そういうことで勉強会はしていくという方向で、時期等については事務局と打合せしていきたいと思います。そしたらこの、この勉強会をどのような形で行うのか、一つは議員全体として、議運と調整して行うのか、もしくは任意で、この原子力安全対策常任委員会で行うのか、その二つの方法ですよね。

笹島委員　やっぱり議員全員で知ってもらいたいですよね。私らだけで云々っていうことは、数も少ないですし。

副委員長　我々が企画して、それで、議運がのってくれば一緒にやると。議運がぐちゃぐちゃ言うんだったら、我々だけで行きましょう。

冨山委員　大丈夫だと思いますよ。

副委員長　そうだろうけどね。そうだろうけど、あらかじめそういう話決めておけば、円滑に。

委員長　これについては議運と調整してみたいと思います。

あとそのほかについてですけども何かございますか。

ないようですので、本日の会議はこれをもって終了といたします。

以上で原子力安全対策常任委員会を閉会いたします。

皆様ご苦労さまでした。

閉会（午前10時50分）

令和５年10月３日

那珂市議会　原子力安全対策常任委員会委員長　武藤　博光